

原理

粉砕機本体上部に設置された投入口より定量供給された原料は、回転する本体側粉砕板の中央より粉砕部に導入されます。

導入された原料は、相対方向に高速回転する本体側・ドア側回転板に取り付けられた346本のピンとピンにより衝撃力を受け、粉砕され下部の口より排出されます。ピンの多さと、高速回転により、スクリーンを使用せずに粒度制御が行われます。ピン先端と回転板のクリアランスも微小に保持されており、微粉砕が可能になっています。衝撃力は回転するピンの周速により決定されます。この粉砕機(EM-A)の場合、回転板を相対的に回転する事により、両粉砕板の周速を合わせた速度による衝撃力を得ることが出来、微粉砕を可能にしました。

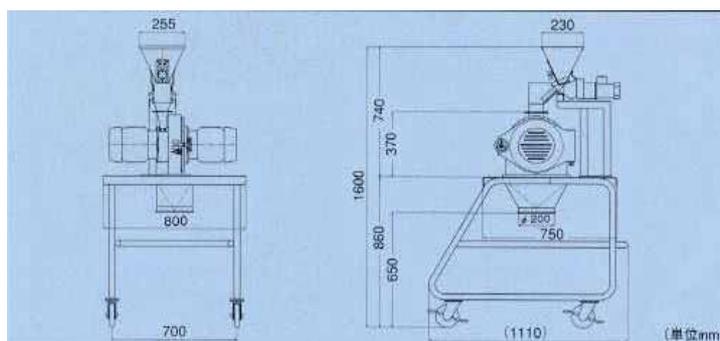
回転するピンには遠心力が働き付着しにくい為、全てのピンが回転するこの粉砕機では、付着性や凝集性の有る原料も粉砕ができます。回転板にはモーターが直結されていますので、伝導部品によるエネルギーロスが無く経済的な運転が実現しています。インバーターにより粒度調整の為の回転板回転数変更も簡単に出来ます。

軸シールにはエアーシールを採用しています。

特長

粉砕室内の滞留時間が短い為、熱に敏感な原料にも対応できます。
 相対方向に高速回転する粉砕板に取り付けられたピンにより**微粉砕が可能**。
スクリーンを使用しませんので、付着性や凝集性の有る原料も微粉砕可能。
 粉砕板の裏には粉が回らない工夫がされ、**内部洗浄が簡単**。

仕様



標準仕様

回転数:

ドア側 - 最高 12,000 rpm (可変速)

本体側 - 最高 10,000 rpm (可変速)

所要動力:

ドア側 - 3.7kw + インバーター

本体側 - 3.7kw + インバーター

対象物

抹茶、カーボンブラック、電池材料、蛍光材料、顔料、セラミックス、タルク、医薬品、香辛料、タンカル、金属粉、農薬、塗料、香料、肥料、染料、飼料、食品添加物、等